



＼令和6年4月から／

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」施行

生活困窮、性暴力・性犯罪、家庭関係の破綻などの問題を抱える女性が、それぞれの意思が尊重されながら最適な支援が受けられるようにするため、令和4年5月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が制定されました。この法律が、令和6年4月より施行します。

女性が抱える困難とは…



家にも学校にも居場所がない若年女性
虐待。生活困窮。家族との不和。家に食べるものもない。いじめ、教師との不和、不登校。

家出・繁華街で彷徨
お金がない、働けるところがない、行く当てがない。
公的な支援や相談機関を知らないか、強い抵抗感がある。

SNS等を利用して居場所を求める
声をかけてくれた人、自分を受け入れてくれた人についていく

→ 犯罪被害、希死念慮等

話してみませんか？
今、困っていること...
相談窓口へ

男女共同参画センターえーる
3996-9050
毎日9:00~19:00
祝休日は17:00まで
(年末年始を除く)
※家族の問題、人間関係、配偶者や恋人などからの暴力の相談等



練馬総合福祉事務所 5984-4742(直)
光が丘総合福祉事務所 5997-7714(直)
石神井総合福祉事務所 5393-2802(直)
大泉総合福祉事務所 5905-5263(直)
月~金曜日8:30~17:15
(祝休日・年末年始を除く)
※生活のこと、家庭内の問題、配偶者や恋人などからの暴力の相談等

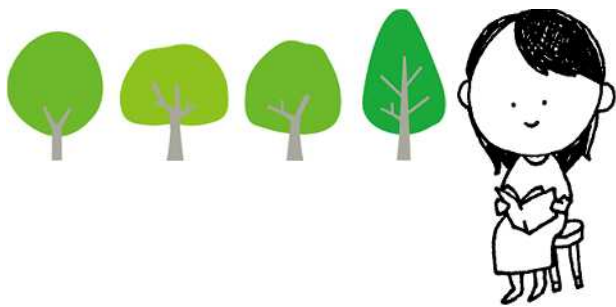
BOOK

ルポ 歌舞伎町の路上売春

春増翔太 著
筑摩書房 2023

2022年の晩秋、大久保公園の周囲には、道に立つ女性が急増したという。その光景はいまも変わらず、身体を売するために路上に立つ若い女性がひしめきあう。犯罪にあう可能性もあるのに、なぜそこに立ち続けるのか。毎日新聞社会部の記者である著者が、60人以上の女性たちに取材。さらに彼女たちを支援するNPOや買春する男性等にも取材し「リアル」に迫った一冊。





子どもへの性加害

齊藤章佳著
幻冬舎 2023



子どもの性被害の報道が相次いでいる。「男の子だから心配ない」は、通用しない時代となった。小児性愛障害とは13歳以下の子どもに対して性的関心を持つ精神疾患。性的グロームングとは、子どもとの関係性を巧みに利用して性的接触をする行為のこと。病の本質を語る。

もう一人、誰かを好きになったとき

荻上チキ著
新潮社 2023



この本のテーマ「ポリアモリー」とは、合意に基づいた複数の相手との愛情、性愛、友愛の関係のこと。著者は当事者（ポリー）への取材や日本初の調査をし、百万人を超えるポリアモリー実践者がいるとみられるも、知られていないポリーたちの存在と実態にせまる。

家族と厄災

信田さよ子著
生きのびるブックス 2023



コロナ禍で家族に何が起きたか。外に出ることを禁じられて一日中家族が顔を合わせて暮らす時間。新たなケア役割を担うのは圧倒的に女性たちだ。この厄災を生き延びた女性たちの姿を通して、著者は、目を凝らさなければ見えてこなかったもの、ないものとされてきた現実を描く。



Well-being ウェルビーイングって何だろう？

ウェルビーイングとは？

Well(よい)と Being(状態)が組み合わさった言葉で、心身共に満たされた状態を表す概念。WHO (世界保健機関)は「個人や社会のよい状態」としています。

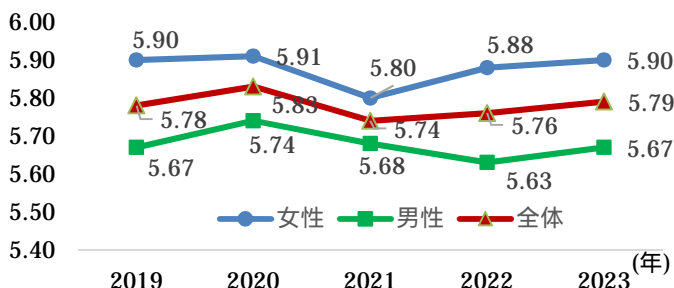
WHO 憲章の中で健康の定義としてウェルビーイングを紹介。「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも社会的にもすべてがよい状態にあること」。

経済が成熟した今、物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさや幸福も重要視しようという動きが世界的に広がっており、ウェルビーイングの考えを取り入れる企業や国が増えています。

求めるものはひとりひとり違うよ

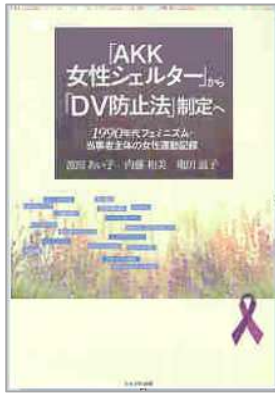


生活満足度(総合的な満足度)の推移



内閣府は、令和元(2019)年から「家計と資産」「仕事と生活」「健康状態」「社会とのつながり」「子育てのしやすさ」等13分野で国民の生活満足度(ウェルビーイング)を調べる「満足度・生活の質に関する調査」を行っています。

参考資料：日本 WHO 協会、ベネッセウェルビーイング Lab、内閣府 HP



「AKK女性シェルター」から「DV防止法」制定へ

波田あい子、内藤和美、亀田温子著
かもがわ出版 2023

日本で「DV」という言葉/概念が普及したのが1990年代。存在しながら見えなかった家族内の暴力とその構造を、社会的に可視化し顕在化させたのがこの「DV」という言葉。女性たちにDV被害者だったと認識させたことが、やがて活動につながっていく。



アイヌももや

北原モコットウナシ、田房永子著
303BOOKS 2023

近頃マンガ等で登場する「アイヌ」は、残念ながら「差別」や「偏見」という言葉がついてまわる。アイヌとしてのルーツをもつ著者が、無知や無意識からくるアイヌや非アイヌの抱えるスッキリしないももやを解説。田房永子の漫画でより理解しやすく手に取りやすい一冊。



母の壁

前田正子、安藤道人著
岩波書店 2023

保育園へ入所申請した世帯へのアンケートに書込まれた様々な母親の生きづらさや苦悩。そこから、制度が母親の人生を束縛する「保育の壁」、家事育児負担が母親に偏る「家庭の壁」、子どもの有無でキャリアが左右される「職場の壁」という三つの社会的障壁が見えてきた。この壁を壊せるのか。



だいたいどこだ?

遠見才希子、川原瑞丸著
大泉書店 2021

性犯罪のニュースを毎日のように見聞きする現在、子どもを守るために大切な性教育。体の「だいなところ」を知り、「自分のからだは自分のもの」であり、自分を大事にし、また自分以外の人も大切にすることについて、親子で一緒に考えていくはじめての「からだ」と「性」の絵本。

書名	著者名	発行
人を動かすナラティブ	大治朋子	毎日新聞出版
これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門	三橋順子	辰巳出版
ジェンダー目線の広告観察	小林美香	現代書館
未婚と少子化	筒井淳也	PHP 研究所
障害があり女性であること	土屋葉	現代書館
髪をもたない女性たちの生活世界	吉村さやか	生活書院
家政婦の歴史	濱口桂一郎	文藝春秋
男がつらいよ	田中 俊之	KADOKAWA
はじめてのフェミニズム	デボラ・キャメロン	筑摩書房
クロコダイル	トマ・マチュー	かもがわ出版
母がゼロになるまで	リー・アンダーツ	河出書房新社
かたばみ	木内昇	KADOKAWA

図書室利用案内

はじめてご利用の方は、名前や住所を確認できるものをお持ちの上、利用登録のお手続きをお願いいたします。貸出冊数は6冊まで、貸出期間は4週間です。本の返却期限をお守りください。また、汚損された本が多くなってきました。本を大切に扱ってくださいますようお願いいたします。



こちらから、蔵書目録や新着図書一覧をご覧いただけます。どうぞご利用ください。

虐待の若者らに緊急避難先

こども家庭庁は令和6年度から、虐待に苦しむ若者らの緊急避難先として「こども若者シェルター」の整備をはじめ。保護のノウハウを持つ特定非営利活動(NPO)法人などに対し、スタッフの人件費や家賃などの必要経費として1か所あたり約880万円、心理カウンセリングや就労・就学支援などに約1,200万円を補助し、安全な居場所の提供のための財政基盤を強化する。

性被害 子ども相談件数 月60件越

性被害が後をたたない。性被害に遭った子どものために都が設けた電話相談窓口「子供・保護者専用性被害相談ホットライン」への相談件数が、開設から1か月余りで60件を越えた。都は、より多くの子どもが利用しやすいよう、SNSの窓口も検討している。都が公表した痴漢被害に関するアンケートでは、女性の45%、男性の9%が痴漢にあった経験があるという結果もでている。

また、内閣府は性被害に遭った男性の相談窓口として昨年9~12月に開設した臨時ホットラインに、計118件の相談があったと発表。約半数が不同意わいせつの被害に関する内容。窓口は18歳未満の少年と一般の男性向けに分けられており、少年は35件、一般は83件だった。

小中高生自殺 深刻

令和5年の自殺者数は2万1,818人で(暫定値)、前年の確定値より2年ぶりに減少したが、今後増加の可能性がある。小中高生の自殺は507人で、過去最多だった令和4年の514人に次ぐ水準で深刻な状況が続く。内訳は小学生13人、中学生152人、高校生342人で、昨年の要因は学業不振や進路の悩みが多い傾向。

練馬区 災害時に前橋市とHPで連携、災害に強いまちづくりを加速

練馬区と前橋市は、災害時における情報発信に関する覚書を締結している(平成25年1月15日から)。練馬区または前橋市のいずれかにおいて、大規模災害等の発生で通信機器の損壊、通信回線の断絶などによりHPの閲覧が不可能となった場合に、被害状況・ライフライン・避難所開設情報等を相互にHPで代行発信する。1月13日、練馬区のHPが災害により閲覧できなくなった想定で、前橋市のHPを通じて練馬区の災害情報などを発信する訓練を実施した。今回で5回目の訓練となる。

また、老朽木造住宅が密集する防災まちづくり事業実施地区で旧耐震基準の住宅の耐震化を促進するため、助成制度を拡充すると発表。能登半島地震を踏まえ、同地区で災害に強いまちづくりを更に加速する考え。

東京都 子育て意識調査

都は、20歳未満の子どもを育てる父母1万8,000人を対象に子育てに関する意識調査を行った。その結果、父親の育休取得期間は「1か月未満」が55.9%と半数以上だったが、理想期間は「1か月以上」の回答が82.9%以上だった。母親は育休取得者のうち「1年以上」が53.3%、理想は「2年以上」が36.1%と最多。また、家事・育児の分担についての母親への質問では、「配偶者にもっとやってほしい」が71.5%に達し不満がみえる結果となった。

障害者 高齢者 虐待過去最多

厚生労働省は、家庭や施設で虐待を受けたと判断された障害者の数が令和4年度に過去最多の3,482人だったことを公表。前年度比522人増。施設職員らからの虐待を受けた人は396人増の1,352人で4割増となった。また、介護職員による高齢者への虐待は前年度比15.8%増の856件で、こちらも過去最多を更新した。被害者の71.7%が女性。

介護職 初の「離職超過」

厚労省の雇用動向調査によると、入職率から離職率を引いた「入職超過率」が令和4年に介護分野でマイナス1.6%となり、初めて「離職超過」となった。「離職超過」は、介護職から離職する人が働き始める人を上回る状態。人手不足が一層深刻化。

東京都 全高校実質無償化

都は、来年度から都内在住の高校生を対象にした授業料無償化の所得制限の撤廃、私立を含むすべての高校の授業料を実質無償化する方針。都内在住で都外の私立に通う生徒も申請可。少なくとも12万人に新たに助成することとなる。

単身高齢者の終活 都が支援

都は、単身高齢者の緊急連絡先やかかりつけ医、延命治療の希望の有無といった「終活情報」の登録事業をする市区町村に、人件費や事務費を補助する(上限500万円)方針を固めた。都の推計では、令和12年には都内の65歳以上の高齢者は337万人まで増え、3分の1が単身所帯になるという。

フランスの出生率 過去最低水準

出生率回復の成功例とされていた仏の、国立統計経済研究所(INSEE)は、令和5年の出生数が67万8,000人で前年から約7%減少し、過去最低水準の出生率となったことを発表した。1人の女性が生涯に産む見込みの子どもの数を示す「合計特殊出生率」は前年から0.11減少し、1.68になった。



すてっぷは、次号より紙面をリニューアルしてお届けいたします。楽しみにお待ちください。